

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：4月レポート

稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
野村亮輔（研究推進部）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●5月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表3)、**4月の訪日外客総数(推計値)は13万9,500人**となった(2019年同月比-95.2%)。4月10日から1日当たりの入国者数の上限が1万人へ引き上げられたこともあり、前月(6万6,100人)から大幅増加し、20年3月(19万3,658人)以来の10万人超の水準となった。なお、同月の日本人出国者数は12万9,200人(同-92.2%)と前月(7万678人)から増加した。アウトバウンド需要の回復がインバウンドに先行している。

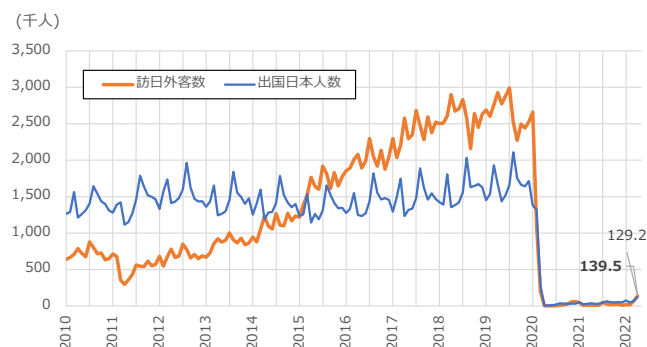
▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると、ベトナムが2万9,800人と最も多く、2019年同月比では-46.1%と前月(同-78.9%)から減少幅は縮小した。次いで中国が2万2,400人、インドネシアが1万1,700人、フィリピンが8,500人、韓国が7,700人と続く。

▶**目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば、2月は1万6,719人**となった(2019年同月比-99.4%)(図2及び表4)。うち、**観光客**は999人(同-100.0%)、**商用客**は1,282人(同-99.0%)、**その他客**は1万4,438人(同-89.1%)であった。2月末まで外国人の新規入国停止が延長されたことで、いずれも低水準となった。

▶日本では**観光目的の訪日外客への水際対策緩和が予定されている**。政府は5月24日より米国、オーストラリア、シンガポール、タイの4カ国・地域から観光目的での少人数ツアーを受け入れる実証事業を行っている。ツアー対象者には3回目のワクチン接種完了など一定の条件が設けられているものの、観光客の受け入れが再開された。なお、上記4カ国のワクチン追加接種率をみれば、シンガポールが74.9%、オーストラリアが52.9%、タイが39.2%、米国が31.1%となっている。今後の水際対策緩和として、6月1日から**1日当たりの入国者数の上限が1万人から2万人へと引き上げられる**。更に10日から**米国など98カ国・地域を対象に約2年ぶりに観光目的での外国人の新規入国再開が予定されている**。入国緩和が予定通り実現されれば、夏にかけて訪日外客の回復が期待されよう。

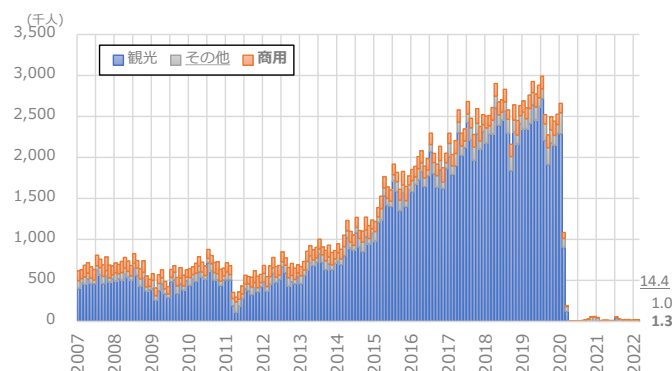
▶世界では欧州を中心に**ウィズコロナへの転換が進められている**。スイスでは4月から公共交通機関でのマスク着用義務を撤廃し、5月2日から全ての国から入国規制を解除した。また、ドイツでは6月1日から入国規制を大幅緩和することを発表した。今後、消費者センチメントの回復によるが、欧州の行動制限一層の緩和で、夏季休暇に向けて旅行需要の回復が見込まれている。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 2020年まで確定値、21年、22年1-2月は暫定値、
22年3-4月は推計値

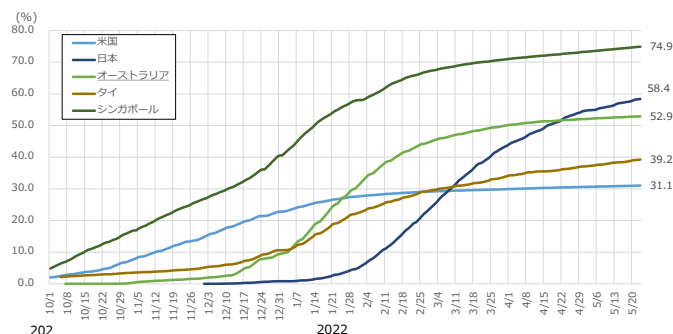
図2 目的別訪日外客数推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

図3 ワクチンの追加接種状況



出所: Our World In Data より作成(5月23日時点)

*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020年11月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意頂きたい。

トピックス 1

● 4 月関西の財貨・サービス貿易及び 3 月のサービス産業動向

▶ 関西 4 月の輸出は前年同月比+10.2%と 14 カ月連続の増加だが、前月(同+15.1%)から減速した(図 4)。中国の「ゼロコロナ政策」による物流停滞で対中貿易減速の影響が表れた。また、輸入額はエネルギー関連財の価格高騰や医薬品の増加もあり、同+22.1%と 15 カ月連続の増加となった(前月：同+27.1%)。結果、関西の貿易収支は 1,908 億円と 3 カ月連続の黒字だが、黒字幅は前年同月比-38.9%と 2 カ月連続で縮小した(前月：同-25.2%)。

▶ 対中貿易動向をみると(図 5)、関西 4 月の対中輸出は上海市など都市部でのロックダウンが影響し、前年同月比-6.8%と 23 カ月ぶりに減少に転じた(前月：同+6.1%)。輸出減に寄与したのは科学光学機器や半導体等電子部品等であった。また、対中輸入も同-6.5%と 11 カ月ぶりにマイナスに転じた(前月：同+24.8%)。うち、輸入減に寄与したのは通信機や衣類及び同附属品等であった。

▶ 4 月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は 2 万 1,616 人であった(2019 年同月比-97.2%)。前月(1 万 284 人)から増加し、20 年 3 月(3 万 5,696 人)以来の水準となった。前述した 1 日当たりの入国者数の上限引き上げの影響が表れた。また、日本人出国者数は 1 万 736 人で、前月(6,196 人)から増加した(同-96.8%)。

▶ 3 月はまん延防止等重点措置が全国的に解除されたこともありサービス業を取り巻く状況は改善した。サービス業の生産活動を示す第 3 次産業活動指数(季節調整済み：2015 年平均=100)をみれば(図 7)、3 月は 97.6 で前月比+1.3%上昇し、4 カ月ぶりのプラスとなった(前月：同-1.8%)。COVID-19 感染状況が落ち着き始めたことで、対面型サービス業指数*は 85.8 となり同+5.1%上昇、3 カ月ぶりのプラス(前月：同-5.0%)。うち、**その他の生活関連サービス業(同+25.5%)**や**飲食店、飲食サービス業(同+3.4%)**が上昇に寄与した。結果、1-3 月期の第 3 次産業活動指数は 97.3、前期比-1.0%、対面型サービス業は 84.4、同-0.2%と、いずれも 2 四半期ぶりのマイナスとなった(10-12 月期：第 3 次産業：同+1.5%、対面型サービス：同+7.9%)。

▶ 観光関連指数**(2015 年平均=100)は、73.6 と前月比+3.8%上昇し、3 カ月ぶりのプラス(前月：同-4.6%)(図 7)。まん延防止等重点措置解除による行動制限緩和の影響もあり、**宿泊業(同+6.8%)**や**旅行業(同+239.7%)**はいずれも 3 カ月ぶりに改善した(前月：宿泊業：同-7.6%、旅行業：同-16.4%)。1-3 月期では、72.9、前期比-5.9%低下し、2 四半期ぶりのマイナスとなった(10-12 月期：同+16.8%)

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第 3 次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図 4 関西 対世界貿易の推移

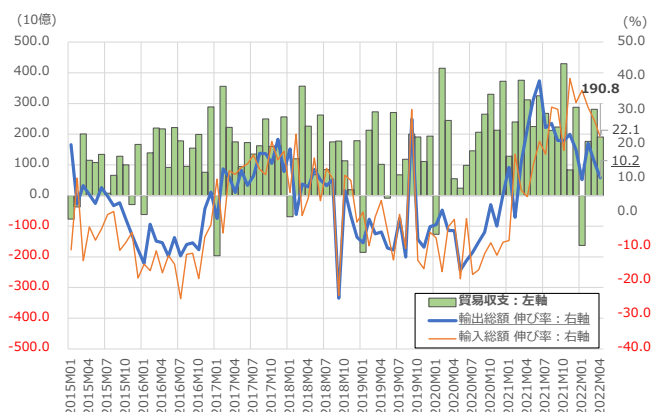
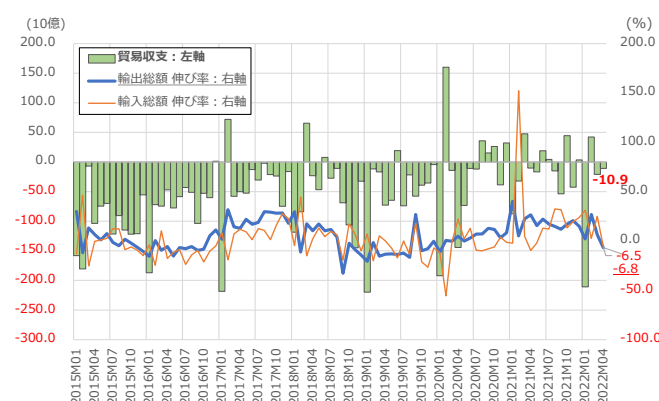
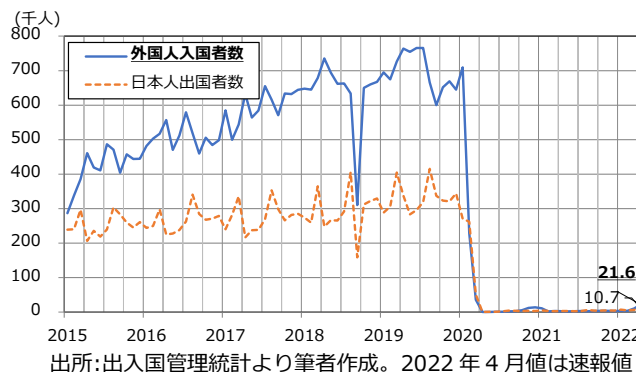


図 5 関西 対中貿易の推移



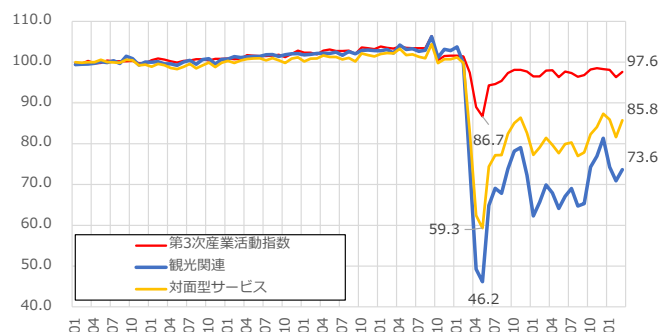
出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図 6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2022 年 4 月値は速報値

図 7 観光関連 対面型サービス 第 3 次産業：2015 年=100



出所：経済産業省「第 3 次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

● 2月延べ宿泊者数の動向：関西 2 府 8 県

▶観光庁によれば、2月の関西 2 府 8 県の延べ宿泊者数(全体)は **4,085.4 千人泊**であった(表 1)。三重県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県へのまん延防止等重点措置が延長された影響もあり、**2019 年同月比は-52.9%と前月(同-38.0%)から減少幅が拡大し、21 年 9 月(同-58.7%)以来の落ち込みとなった。**

▶日本人延べ宿泊者数は 4,053.0 千人泊であった。**2019 年同月比 -35.1%と前月(同-14.1%)から減少幅は拡大した**(表 1 及び図 8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府が 1,391.6 千人泊、京都府が 867.9 千人泊、兵庫県が 679.1 千人泊、三重県が 331.9 千人泊、滋賀県が 182.8 千人泊、和歌山県が 182.3 千人泊、福井県が 137.6 千人泊、奈良県が 102.7 千人泊、徳島県が 91.1 千人泊、鳥取県が 86.1 千人泊であった。いずれの府県も前月から減少幅は拡大した。

▶外国人延べ宿泊者数は 32.4 千人泊と、**2019 年同月比-98.7%減少した(前月：同-98.4%)**(表 1 及び図 9)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府が 22.6 千人泊、京都府が 4.6 千人泊、三重県が 1.3 千人泊、兵庫県が 1.2 千人泊、和歌山県が 0.8 千人泊、滋賀県、奈良県がいずれも 0.6 千人泊、福井県が 0.3 千人泊、鳥取県が 0.3 千人泊、徳島県が 0.2 千人泊であった。

▶関西 2 府 8 県延べ宿泊者を居住地別でみると(図 10)、県内の延べ宿泊者数は 1,181.2 千人泊(2019 年同月比+4.4%)、県外は 2,759.9 千人泊(同-61.3%)であった。まん延防止等重点措置の延長による外出自粛が影響し、県内の増加幅は前月(同+32.2%)から縮小し、県外の減少幅(同-48.1%)は拡大した。

▶3月の全国延べ宿泊者数(全体、1 次速報ベース)は 33,382 千人泊、19 年同月比-34.7%と減少幅は前月(同-46.5%)から縮小した。3月 21 日にまん延防止等重点措置が全国的に解除され、各自治体の旅行需要喚起策の再開が予定されていることもあり、先行き宿泊需要の回復が見込まれよう。

図 8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

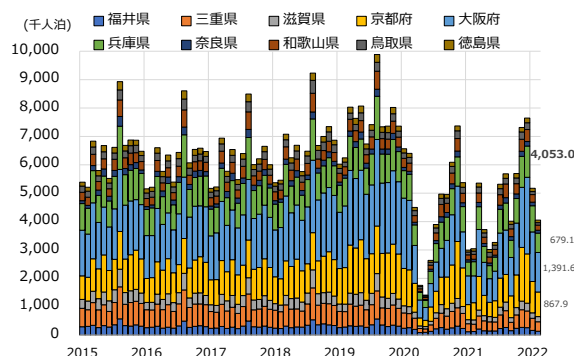


図 9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

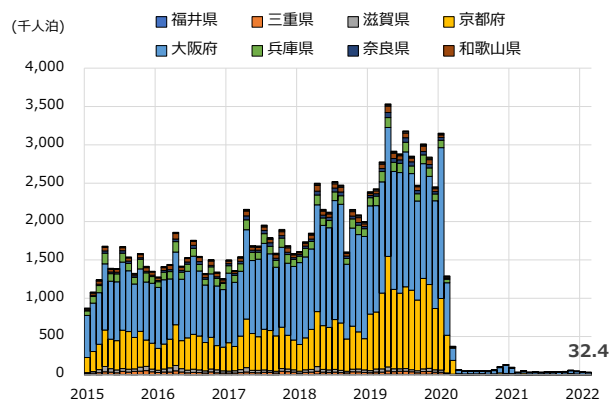
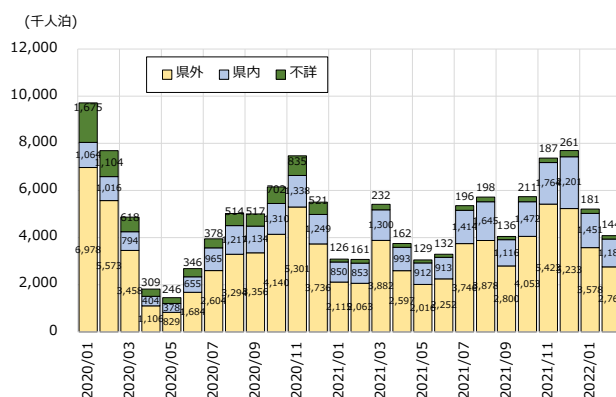


図 10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表 1 関西 延べ宿泊者数伸び率：2月

2022年2月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)
福井県	138.0	7.6	-53.1	137.6	7.8	-51.7	0.3	-31.9	-96.7
三重県	333.2	29.2	-41.6	331.9	29.9	-38.8	1.3	-44.6	-95.5
滋賀県	183.4	18.3	-39.8	182.8	18.6	-31.2	0.6	-30.6	-98.5
京都府	872.5	43.4	-57.0	867.9	43.8	-32.5	4.6	-5.4	-99.4
大阪府	1,414.2	46.3	-60.3	1,391.6	46.9	-36.0	22.6	18.4	-98.4
兵庫県	680.3	35.3	-38.1	679.1	36.0	-30.4	1.2	-64.3	-99.0
奈良県	103.3	19.0	-27.9	102.7	18.9	-8.1	0.6	40.5	-98.1
和歌山県	183.1	5.9	-44.6	182.3	5.7	-37.8	0.8	102.7	-98.0
鳥取県	86.4	-23.0	-52.1	86.1	-22.7	-46.9	0.3	-66.7	-98.6
徳島県	91.3	5.3	-42.1	91.1	5.4	-38.8	0.2	-20.8	-97.9
関西2府4県	3,436.6	37.9	-54.0	3,406.2	38.3	-33.3	30.3	4.5	-98.7
関西2府8県	4,085.4	32.8	-52.9	4,053.0	33.1	-35.1	32.4	-1.3	-98.7
全国	23,277.0	32.0	-46.5	23,071.6	32.4	-32.7	205.4	-0.7	-97.8

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図 8～10 及び表 1)

トピックス 3

● 2022 年 1-3 月期国内旅行消費の動向：関西 2 府 8 県*

▶観光庁によれば、2022 年 1-3 月期関西(2 府 8 県ベース)の国内旅行消費額(速報)は 4,235.8 億円であった(表 2)。2019 年同期比-47.7%と 21 年 10-12 月期(同-25.4%)からマイナス幅は拡大した。オミクロン株感染拡大を受け、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県へまん延防止等重点措置が実施され、不要不急の外出を控えたことが悪影響した。

▶宿泊旅行消費額は、3,019.0 億円で 2019 年同期比-49.2%となり、21 年 10-12 月期(同-23.0%)からマイナス幅は拡大(図 13 及び表 2)。府県別に消費額を降順にみれば、京都府 716.7 億円(同-35.2%)、大阪府 705.0 億円(同-58.9%)、兵庫県 600.5 億円(同-51.7%)、和歌山県 246.9 億円(同+10.2%)、三重県 245.1 億円(同-59.2%)、福井県 136.0 億円(同+27.0%)、奈良県 104.6 億円(同-33.4%)、鳥取県 100.7 億円(同-67.6%)、徳島県 86.8 億円(同-68.1%)、滋賀県 76.7 億円(同-61.9%)であった。福井県、和歌山県ではプラスを維持したが、その他府県では大幅マイナスとなった。

▶日帰り旅行額は 1,216.8 億円で 2019 年同期比-43.9%となった(21 年 10-12 月期：同-32.5%)(図 14 及び表 2)。府県別に消費額を降順にみれば、京都府 354.7 億円(同-28.3%)、三重県 229.3 億円(同-8.4%)、大阪府 206.9 億円(同-62.1%)、兵庫県 161.1 億円(同-68.0%)、鳥取県 63.8 億円(同+64.5%)、奈良県 53.3 億円(同-21.8%)、滋賀県 49.6 億円(同-67.0%)、和歌山県 40.1 億円(同-11.4%)、福井県 37.2 億円(同-10.5%)、徳島県 20.9 億円(同-28.1%)であった。

▶先行きについては、まん延防止等重点措置の全国的解除、3 年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークや各府県の需要喚起策の再開で旅行需要の回復が見込まれている。このため、22 年 4-6 月期の国内旅行消費額は増加が期待されよう。

*トピックス 3 は四半期ごとの掲載である。

図 13 関西 2 府 8 県 宿泊旅行消費額の推移

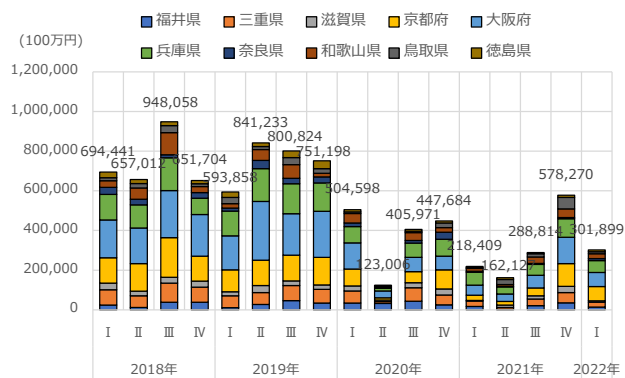
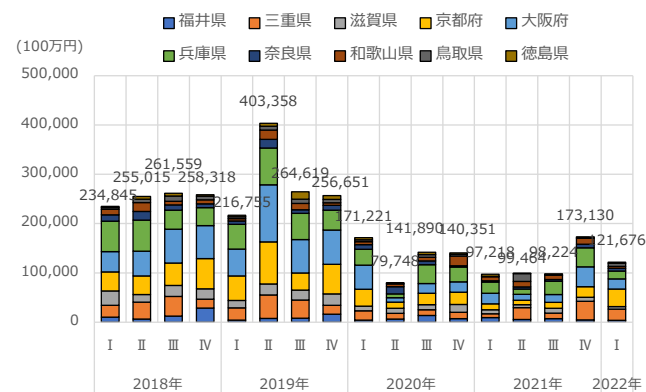


図 14 関西 2 府 8 県 日帰り旅行消費額の推移



(注) 宿泊旅行、日帰り旅行ともに、観光・レクリエーション目的以外に帰省・知人訪問等、出張・業務目的を含む。

観光・レクリエーション：周遊観光、テーマパーク、修学旅行等

帰省・知人訪問等：実家への帰省、親類や友人宅への訪問等

出張・業務：本社・支店・工場などの訪問、研修・セミナーへの参加等

2021 年 10-12 月期までのデータは確報。22 年 1-3 月期は速報

(上図も同様)。

出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表 2 関西 国内旅行消費額：2022 年 1-3 月

22年1-3月期	国内旅行消費額			宿泊旅行消費額			日帰り旅行消費額		
	金額： 100万円	伸び率： 21年1-3月期比 (%)	伸び率： 19年1-3月期比 (%)	金額： 100万円	伸び率： 21年1-3月期比 (%)	伸び率： 19年1-3月期比 (%)	金額： 100万円	伸び率： 21年1-3月期比 (%)	伸び率： 19年1-3月期比 (%)
福井県	17,318.9	-34.8	16.5	13,601.2	-21.3	27.0	3,717.7	-59.8	-10.5
三重県	47,435.6	35.5	-44.3	24,508.6	-10.2	-59.2	22,927.0	197.8	-8.4
滋賀県	12,633.4	17.8	-64.1	7,671.5	184.9	-61.9	4,961.9	-38.2	-67.0
京都府	107,139.8	180.5	-33.1	71,671.4	174.6	-35.2	35,468.4	193.2	-28.3
大阪府	91,191.6	26.8	-59.7	70,504.0	39.3	-58.9	20,687.6	-3.0	-62.1
兵庫県	76,153.2	-14.1	-56.4	60,046.2	-8.8	-51.7	16,107.0	-29.6	-68.0
奈良県	15,793.2	119.9	-29.9	10,461.0	123.9	-33.4	5,332.2	112.4	-21.8
和歌山県	28,691.3	31.6	6.5	24,685.8	80.5	10.2	4,005.5	-50.7	-11.4
鳥取県	16,452.0	181.3	-53.0	10,071.1	115.3	-67.6	6,381.0	445.1	64.5
徳島県	10,766.3	11.2	-64.3	8,678.7	56.1	-68.1	2,087.6	-49.3	-28.1
関西2府8県	423,575.3	34.2	-47.7	301,899.4	38.2	-49.2	121,675.9	25.2	-43.9

出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表3 2022年4月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	4月	4月		1-4月	1-4月	
総数	2,926,685	139,500	-95.2	10,980,482	240,100	-97.8
総数(韓国・その他除く)	2,226,023	99,500	-95.5	7,955,858	167,600	-97.9
韓国	566,624	7,700	-98.6	2,647,397	16,600	-99.4
中国	726,132	22,400	-96.9	2,895,449	36,000	-98.8
台湾	403,467	2,800	-99.3	1,593,227	6,400	-99.6
香港	194,806	1,300	-99.3	699,852	1,900	-99.7
タイ	164,817	3,200	-98.1	512,754	5,900	-98.8
シンガポール	36,704	600	-98.4	129,169	1,100	-99.1
マレーシア	46,092	1,100	-97.6	164,766	2,000	-98.8
インドネシア	39,768	11,700	-70.6	136,476	18,200	-86.7
フィリピン	69,266	8,500	-87.7	188,700	14,600	-92.3
ベトナム	55,295	29,800	-46.1	177,928	42,900	-75.9
インド	18,376	3,600	-80.4	57,667	9,600	-83.4
豪州	70,504	1,100	-98.4	243,400	2,100	-99.1
米国	170,247	5,200	-96.9	542,671	10,800	-98.0
カナダ	38,897	700	-98.2	123,032	1,400	-98.9
メキシコ	8,222	200	-97.6	20,466	500	-97.6
英国	44,537	1,600	-96.4	128,255	3,000	-97.7
フランス	46,005	1,700	-96.3	108,130	3,300	-96.9
ドイツ	27,829	1,600	-94.3	81,230	2,700	-96.7
イタリア	24,062	800	-96.7	50,948	1,500	-97.1
ロシア	13,858	400	-97.1	31,689	1,100	-96.5
スペイン	13,787	800	-94.2	37,405	1,700	-95.5
中東地域	13,352	400	-97.0	32,644	900	-97.2
その他	134,038	32,300	-75.9	377,227	55,900	-85.2

表4 2022年2月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2020年	2022年	伸率(%)	2020年	2022年	伸率(%)	2020年	2022年	伸率(%)	2020年	2022年	伸率(%)
	2月	2月		2月	2月		2月	2月		2月	2月	
総数	2,604,322	16,719	-99.4	2,341,479	999	-100.0	130,544	1,282	-99.0	132,299	14,438	-89.1
韓国	715,804	913	-99.9	675,023	55	-100.0	26,801	86	-99.7	13,980	772	-94.5
中国	723,617	2,359	-99.7	647,740	120	-100.0	25,092	296	-98.8	50,785	1,943	-96.2
台湾	399,829	601	-99.8	383,849	43	-100.0	8,421	73	-99.1	7,559	485	-93.6
香港	179,324	70	-100.0	175,381	20	-100.0	2,771	9	-99.7	1,172	41	-96.5
タイ	107,845	137	-99.9	103,045	18	-100.0	2,865	5	-99.8	1,935	114	-94.1
シンガポール	26,102	86	-99.7	23,008	14	-99.9	2,564	8	-99.7	530	64	-87.9
マレーシア	36,660	109	-99.7	33,488	7	-100.0	1,917	11	-99.4	1,255	91	-92.7
インドネシア	24,622	539	-97.8	20,064	9	-100.0	1,875	9	-99.5	2,683	521	-80.6
フィリピン	35,170	952	-97.3	29,567	128	-99.6	2,063	19	-99.1	3,540	805	-77.3
ベトナム	39,377	2,613	-93.4	9,839	41	-99.6	2,489	83	-96.7	27,049	2,489	-90.8
インド	9,071	1,660	-81.7	2,321	26	-98.9	4,425	50	-98.9	2,325	1,584	-31.9
豪州	47,658	134	-99.7	44,353	13	-100.0	2,495	31	-98.8	810	90	-88.9
米国	92,669	595	-99.4	72,454	181	-99.8	16,533	39	-99.8	3,682	375	-89.8
カナダ	23,883	101	-99.6	21,539	45	-99.8	1,673	18	-98.9	671	38	-94.3
メキシコ	2,889	22	-99.2	2,394	3	-99.9	363	0	-100.0	132	19	-85.6
英国	23,554	148	-99.4	18,220	33	-99.8	4,294	11	-99.7	1,040	104	-90.0
フランス	17,397	140	-99.2	12,982	22	-99.8	3,320	12	-99.6	1,095	106	-90.3
ドイツ	13,384	81	-99.4	7,946	23	-99.7	4,676	11	-99.8	762	47	-93.8
イタリア	5,897	46	-99.2	3,813	8	-99.8	1,780	6	-99.7	304	32	-89.5
ロシア	5,601	112	-98.0	3,777	15	-99.6	1,333	11	-99.2	491	86	-82.5
スペイン	4,533	53	-98.8	3,541	11	-99.7	697	8	-98.9	295	34	-88.5
中東地域	3,630	77	-97.9	2,493	7	-99.7	809	5	-99.4	328	65	-80.2
その他	65,806	5,171	-99.9	44,642	157	-100.0	11,288	481	-100.0	9,876	4,533	-99.5

注) 目的別訪日外客数の定義については、図2 注参照。

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2022年5月18日付より筆者加工